

令和元年度

直方市決算要点紹介

令和元年度の市の決算が次の表のとおり
議会で承認され、確定しました。
その内容について、ご紹介いたします。



直方市の
台所事情を
チェック
してみよう

問い合わせ

財政課
(TEL 25-2231)

CHECK 1
まずは基本から
令和元年度も実質収支は
黒字となりました

令和元年度は、一般会計（※1）の歳入総額が約270億9千万円、歳出総額が約267億1千万円、収入から支出を差し引いた収支（形式収支）は約3億8千万円の黒字です。これから令和2年度に繰り越して行うことになった事業に要する経費を除いた収支（実質収支）では、約1億1千万円の黒字決算です。

単年度で見た場合の収支（実質単年度収支）では、約1億円の黒字でした。

平成30年度に引き続き、令和元年度も基金の取り崩しによる財源調整を行うことなく決算することができま

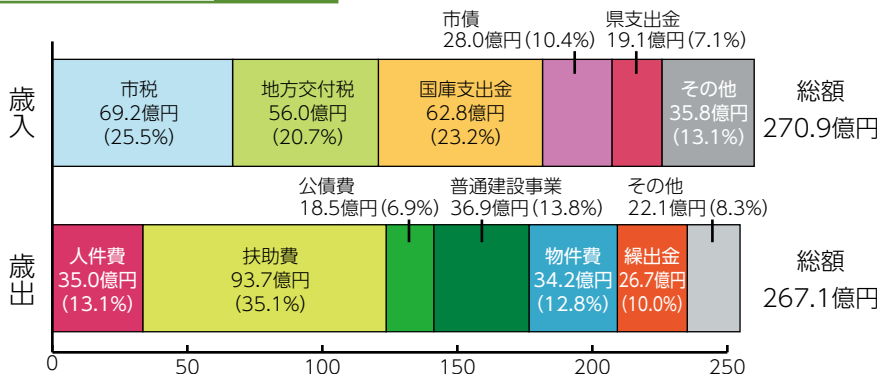
した。また、平成30年度と比較して、収支は若干ではありますが改善したと言えます。

歳入の中身を見ると、地方交付税、国庫支出金、市債といった国等に依存するものが約6割を占め、市税等の自主的に確保できる財源の割合は、全体の約4割弱にとどまっています。

これは、直方市の財政運営が依然として、国の地方財政計画等によって大きく左右される状況にあるといえますが、これらの依存財源のうち主なものである地方交付税については年々減少しており、今後同様の傾向が続くものと見込まれます。

歳出では、人件費、公債費、繰出金、物件費等が前年度より減少していますが、維持補修費、扶助費、補助費等、普通建設事業費、貸付金が増加しています。

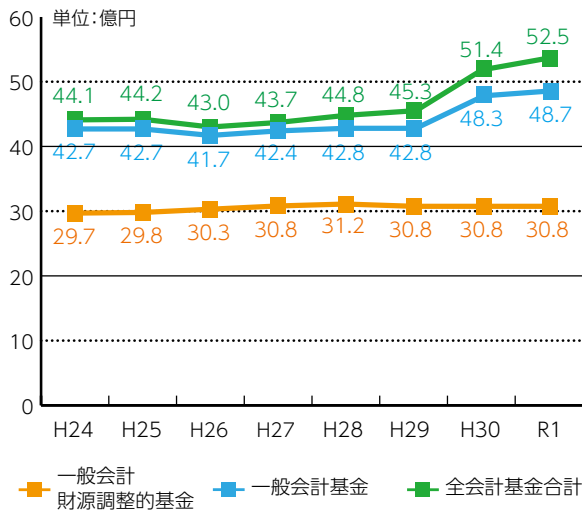
一般会計決算 グラフ①



特別会計 表①

● 国民健康保険特別会計	● 後期高齢者医療特別会計
歳入 57億6,792万円	歳入 9億6,788万円
歳出 58億2,155万円	歳出 9億4,577万円
● 同和地区住宅資金貸付事業特別会計	● 上頓野産業団地造成事業特別会計
歳入 1,749万円	歳入 1,778万円
歳出 1,309万円	歳出 1,778万円
● 介護保険特別会計(保険事業勘定)	
歳入 64億9,625万円	
歳出 62億8,044万円	
● 介護保険特別会計(介護サービス事業勘定)	
歳入 3,948万円	
歳出 3,879万円	

基金残高の変化 グラフ②



※1 市町村などが通常行っている業務にかかる経費と収入のまゝり。

公債費については減少してはいるものの、現在実施している市営住宅の建て替えや、し尿処理場建設等の大型事業のための借入金償還開始に伴って、令和2年度からは増加していくことが見込まれています。

なお、特別会計の決算は表①のようになります。

CHECK 2

気になる貯金(基金)と借金(市債)の残高は

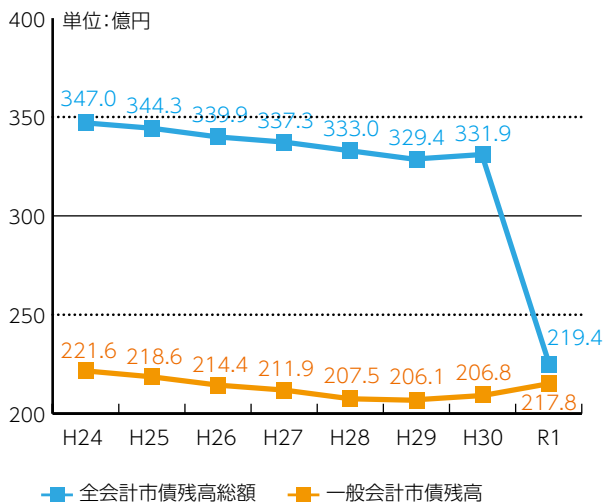
貯金・借金共に増加

令和元年度末時点での基金(貯金)と市債(借金)の残高の推移は左図グラフ②、グラフ③のようになります。

基金残高は約52億5千万円、このうち一般会計分は約48億7千万円、一般会計分の中でも使いみちが特定されていない財源の調整に使える基金は約30億8千万円です。

前年度に比べて、市の基金残高は約1億1千万円増加しました。

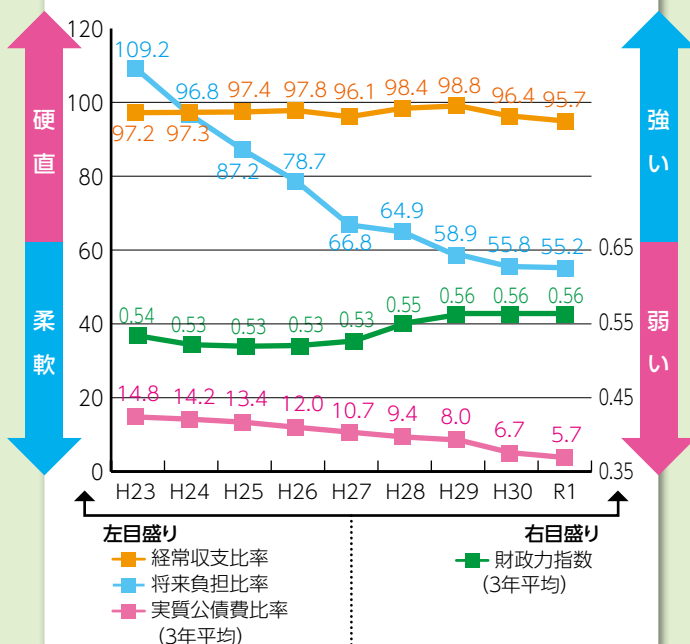
市債残高の変化 グラフ③



次に市の借金である市債残高は、一般会計とその他特別会計も含めた総額で約219億4千万円となり、前年度に比べて約112億5千万円の減となっていますが、これは公共下水道事業特別会計および農業集落排水事業特別会計が公営企業へと移行したことに伴い、市の会計に算入されなくなったことによるもので、この2つの会計を除くと、前年度と比較して実質的には約10億7千万円の増となっています。

市債残高の内訳は、一般会計で約217億8千万円(前年度より約

各種財政指標の推移 グラフ④



11億円の増)で、特別会計では、上頓野産業団地造成事業で約1億6千万円(前年度より約2千万円の減)、同和地区住宅貸付事業特別会計で約2百万円(前年度より約6百万円の減)となっています。

一般会計の残高が大幅に増えているのは、主に市営住宅の建て替えや、し尿処理場建設等の大型事業のための借入金によるものです。